

4

ロープの取扱い方

ロープの取扱いには十分な注意を払わなければなりません。間違った取扱い方をしますと、ロープが使用不能の状態になったり、また使用開始初期に断線や形くずれなどが生じて、廃棄を余儀なくされる事態を招くことがあります。

ロープを完全な状態で使用するために、次の注意を守って下さい。

① 荷降し及び運搬

①卷枠（木枠又は鉄枠）やコイルを貨車やトラックなどから地面に落下させることは絶対に避け、必ず歩み板を渡して転がして降ろすか、クレーンやホイストなどを使って降ろして下さい。

高い所から落下させますと、卷枠が破損したり、コイルが荷崩れしたりして解纏不能になり、甚だしい場合はロープが著しく損傷することがあります。

②卷枠を転がすときは、「てこ」は必ず巻枠の縁に当て、ロープに触れないようにして下さい。

「てこ」をロープが巻かれている部分に当てて転がしますと、その部分がつぶれて早期廃棄の原因となります。

③石ころ、金属塊、鋼材などの上を転がさないで下さい。

凹凸の激しい床や地面上を転がしますと、ロープにつぶれが生じて早期廃棄の原因となります。

② 保管

①ロープを長期間にわたって保管するときは、乾燥した倉庫内又は上屋などで風通しのよい場所に置いて下さい。ただし、直接日光の当たる所やボイラーの熱源の近くなどは避けて下さい。

高温雰囲気に長時間曝して置きますと、ロープグリースが乾燥して防錆力が落ちてきます。

②ロープはコンクリートの床や地面に直接置かず、必ず枕木などを敷いてその上にのせて下さい。

地面上に直接置きますと、湿気のためにさびたり、甚だしい場合は腐食したりします。

③ロープを止むを得ず屋外に保管するときは、地面から15~30cm離れるように枕木などを敷き、更に雨覆いをかけ、また地面は常に清掃して草を生やさないようにして下さい。

これを怠りますと、湿気や雨水がロープの内部まで侵入して、腐食の原因となり、甚だしい場合は使用に耐えなくなります。なお、ロープの表面にロープグリースを十分塗布しておくことによって、ある程度腐食は防ぐことができます。

④使用後のロープを取外して保管するときは、表面に付着している泥・砂・砂利などと素線やストランドの間の残滓（古いグリースと塵埃の混ざったもの）をワイヤブラシ等できれいに取除いてから、ロープグリースを塗布して下さい。残滓を落すとき、落しやすいからといって洗油を使いますと、洗油が繊維心に浸み込んだり素線の間に残ったりして、かえって腐食を起こす原因になりますので、難燃性でかつさび止め効果を有する当社のロープ専用洗浄剤ダイリューターW-F（232ページ参照）を使用し十分注意して内部に浸透しないよう、また残らないようにして下さい（火気注意）。

③ 解き方

図4-1のようにコイルを転がして延ばすか、回転台に乗せて引出して下さい。もし、誤って図4-2のようにして解きますと、ロープはよりが入ったり戻ったりしてキンクが生じ、使用できなくなることがあります。

